

キャンパス名	千葉キャンパス				
授業番号	10586001				
授業名	宗教社会と民族文化 B	形態	講義	単位	2
担当教員	名和 清隆				
開講学期	2019年度 後学期	曜日・時限	水曜4限		
授業目的	宗教と社会との関わりについて、国内のみならず多様な民族文化を通して理解する。				
授業内容	授業目的を達成するために、本授業では以下の4点に焦点をあてて学んでいく。①宗教とはどのようなものであるか。これを学ぶために、宗教はどのように分類できるか、宗教の機能はどのようなものであるのか、ということをつまえていく。②宗教と聖地。世界各地にある宗教的聖地は、各宗教、各民族によってどのような歴史で形成されてきたか、どのような意味を持つのか、をつまえることにより学ぶ。③シャマニズム。世界各地でみられるシャマニズムを俯瞰し、とくに日本のイタコとユタを比較する。④死後の世界。世界の様々な宗教において、死後の世界をどのように捉えているのか、また死後の世界観によって、「如何に生きるべきか」という観念がどのように生じるかについて学ぶ。				
到達目標	宗教の多様性について理解する。 キリスト教、イスラーム、仏教という世界3大宗教、およびユダヤ教の特徴を理解する。 宗教の社会における役割について理解する。 宗教の持つ世界観が、いかに人間の生き方の規範へとつながるかを理解する。				
ディプロマポリシーとの関連性	<DP1-(4)> 人間・文化・社会・国際事情あるいは自然等について幅広い知識と理解を有している。				
授業形態	講義形式。ビデオなどの視聴覚資料も用いる。毎回宿題（事後学習）を出し提出してもらう。				
事前・事後学習の所要時間	講義時間30時間（2時間×1コマ×15週）＋事前事後60時間（第1～15回目授業までの総合計）				
テキスト	石井研士『プレステップ宗教学』（弘文堂）				
評価方法	テストを実施する。テスト点数、事前学習、事後学習、ほか提出物など総合的に判断して評価する。				
評価基準	テスト点数75点、事後学習ノート20点、ほか5点				
試験・レポート等のフィードバック	14回目に試験、および事後学習ノートを提出してもらい、15回目に試験の解説、事後学習ノートの返却を行う。14回目の試験をやむを得ない事情で欠席した者には、別途個別に対応する。				
注意事項及び履修条件	事前学習、事後学習にしっかりと取り組むこと				

S : 100～90、A : 89～80、B : 79～70、C : 69～60、D : 60未満

第1回	
事前学習	テキスト『プレステップ宗教学』12章（p140-149）を読んでおく。
授業内容	本科目の概要、学習方法、注意点などについてのオリエンテーションを行う。その後、私たちの身の回りにある「宗教」を列挙したうえで、それらが教団によって生じる宗教性と、日常生活のリズムによって維持されるような生活の中の宗教というものに分けて考えられることを指摘し、日本人の宗教性について理解をする。
事後学習	自分の住んでいる町に宗教施設が、どのくらいあるのかを調べてみる。また、自分の家で行ってきた宗教的な行事や習慣について列挙してみる。
参考文献	

第2回	
事前学習	テキスト『プレステップ宗教学』第1章のp6-14までを読んでおく。
授業内容	宗教とはどのようなものか① 宗教とはどのようなものであるかを考えるために、太古の人類での社会で宗教がどのような役割を果たしていたかを見る。また、神の数によって様々なタイプの宗教に分類できることを確認する。
事後学習	宮崎駿監督作品「風の谷のナウシカ」「となりのトトロ」「もののけ姫」「崖の上のポニョ」いずれかを見て、どのような表現がアニミズム的なのかをノートにまとめる。
参考文献	

第3回	
事前学習	テキスト『プレステップ宗教学』第1章のp14-17までを読んでおく。
授業内容	宗教とはどのようなものか②。個人と社会における宗教の果たす機能について学ぶ。また、宗教が広がっている範囲によって世界宗教と民族宗教とに分類できるが、それぞれの特徴について考える。
事後学習	テキスト『プレステップ宗教学』第10章p112-125を読む。授業では焦点を当てなかったが、宗教は様々な視点から捉える事ができる現象であることを理解する。
参考文献	

第4回	
事前学習	テキスト『ブレストップ宗教学』p150-151、25-26、47、57-58、61-62を読み、仏教についての基礎的知識をつけておく。
授業内容	宗教とはどのようなものか③3回目の授業で、世界宗教と民族宗教を学んだが、世界に広がる世界宗教も、各地に伝播・定着する過程において、他の宗教や習俗と習合することによりその姿を変容させていく。仏教が中国において「先祖祭祀」を取り込んでいった過程を見ることにより、宗教の動態性を学ぶ。
事後学習	日本における仏教が、先祖祭祀とどのように関わっているのかを調べまとめる。
参考文献	

第5回	
事前学習	テキスト『ブレストップ宗教学』p22-27、128-132を読み、神社と寺の違いについて考えておく。
授業内容	宗教とはどのようなものか④4回目の授業で、宗教は動態的であることを学んだが、今回は仏教が日本において神祇信仰を取り込んでいった（神仏習合）諸相を見ていく。
事後学習	授業のなかで学んだ、神仏習合のパターンを復習し、現在でも日本のいくつかの有名寺院で見られる神仏習合を調べる。
参考文献	

第6回	
事前学習	テキスト『ブレストップ宗教学』第9章p100-p111を読んでおく。
授業内容	宗教と聖地①世界各地には、多くの宗教的聖地がある。代表的な聖地を取り上げ、そこがなぜ聖地になったのか、歴史的な経緯を理解するとともに、聖地を巡る巡礼の構造と意味を理解する。
事後学習	参考文献『聖地巡礼ツーリズム』を読み、様々なタイプの聖地があることを確認する。
参考文献	星野英紀ほか編『聖地巡礼ツーリズム』（弘文堂）

第7回	
事前学習	テキスト『ブレストップ宗教学』p46-47、63を読み、ユダヤ教について基礎的知識をつけておく。
授業内容	宗教と聖地②6回目の授業で、世界各地の有名な聖地と巡礼について学んだが、7回-9回目の授業では、ユダヤ教、キリスト教、イスラームという3つの宗教の聖地となっているエルサレムに焦点を当てて考えていく。今回は、ユダヤ教とエルサレムの関係について学ぶ。
事後学習	下記の参考文献を読み、ユダヤ教とエルサレムの関係についての理解を深める。
参考文献	「Pen」2012 3月号（通号308）「ユダヤ・キリスト・イスラーム3宗教の聖地へ。エルサレム」（阪急コミュニケーションズ）

第8回	
事前学習	テキスト『ブレストップ宗教学』p152-153、25、48を読み、キリスト教について基礎的知識をつけておく。
授業内容	宗教と聖地③3つの宗教の聖地となっているエルサレムについて、今回は、キリスト教との関係において見ていく。
事後学習	下記の参考文献を読み、キリスト教とエルサレムの関係についての理解を深める。
参考文献	「Pen」2012 3月号（通号308）「ユダヤ・キリスト・イスラーム3宗教の聖地へ。エルサレム」（阪急コミュニケーションズ）

第9回	
事前学習	テキスト『ブレストップ宗教学』p154-155、20-21、49、58-59を読み、イスラームについての基礎的知識をつけておく。
授業内容	宗教と聖地④3つの宗教の聖地となっているエルサレムについて、今回はイスラームとの関係について見ていく。
事後学習	下記の参考文献を読み、イスラームとエルサレムの関係についての理解を深める。また、いわゆる「パレスチナ問題」について、自分自身で調べてみる。
参考文献	「Pen」2012 3月号（通号308）「ユダヤ・キリスト・イスラーム3宗教の聖地へ。エルサレム」（阪急コミュニケーションズ）

第10回	
事前学習	テキスト『ブレストップ宗教学』p150-151、25-26、47、57-58、61-62を読み、仏教についての基礎的知識をつけておく。
授業内容	宗教と聖地⑤仏教の概要、ブッダの生涯と聖地ブッダガヤについて学ぶ。そして、ブッダガヤという聖地が第2次大戦後のインド政府の取り組みや、1956年の仏教2500年祝祭を契機として、世界的聖地として「復活」した過程を見ることにより、聖地も「変化する」ものであることを学ぶ。
事後学習	星野英紀ほか編『聖地巡礼ツーリズム』（弘文堂）の該当ページをコピーして配布するので、一読す

	ること。
参考文献	星野英紀ほか編『聖地巡礼ツーリズム』（弘文堂）

第11回	
事前学習	テキスト『ブレストップ宗教学』8章p90-99を読んでくる。
授業内容	シャマニズム①。超自然的存在と交流するシャーマンを中心とした宗教現象をシャマニズムという。世界各地でみられるシャマニズムについて紹介し、その分類を行う。
事後学習	テレビなどで見た霊能者を思い出し、授業で学んだ「シャーマニズムの分類」で分類してみる。
参考文献	

第12回	
事前学習	テキスト『ブレストップ宗教学』8章p90-99を再読してくる。
授業内容	シャマニズム②日本におけるシャマニズムとして有名な青森下北半島のイタコと沖縄のユタについて、両者の特徴を比較し、社会のなかでの役割について考える。
事後学習	民間霊能者であるイタコとユタについて、さらに自分自身で調べて理解を深める。
参考文献	

第13回	
事前学習	テキスト『ブレストップ宗教学』7章p78-89を読んでくる。
授業内容	死後の世界。宗教の持つ人間観・世界観とは何かを理解したうえで、仏教、キリスト教、イスラームでの死後の世界観についてみていく。
事後学習	それぞれの宗教の死後の世界観が、いかに「人はどのように生きるべきか」という規範につながっているのかについて考えてノートにまとめる。
参考文献	

第14回	
事前学習	試験に向けての準備をしてくる
授業内容	試験、およびテストの解説
事後学習	試験の振り返りをしてくる
参考文献	

第15回	
事前学習	試験の振り返りをしてくる
授業内容	試験の解説
事後学習	解説を聞いたうえで、問題への理解を深める
参考文献	

※この他に試験が実施される場合があります。担当教員の指示に従ってください。

ディプロマポリシー	<p><DP-1> 【社会の構成員としての基本的知識・技能・態度】 社会生活で必要となる汎用的技能及び社会の一員として求められる態度や志向性を身に付けているとともに、人類の文化、社会と自然に関する知識について理解している。</p> <p><DP1-(1)> 日本語及び外国語によるコミュニケーション能力を身に付けている。</p> <p><DP1-(2)> 情報通信機器の活用に関する知識・技能を持ち、利用における法令順守の態度を身に付けている。</p> <p><DP1-(3)> 問題を発見し、課題を解決する能力を持ち、立案・実行過程で主体性を持って協働できる態度を身に付けている。</p> <p><DP1-(4)> 人間・文化・社会・国際事情あるいは自然等について幅広い知識と理解を有している。</p>
-----------	--